

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスCOCAGE		
○保護者評価実施期間	R8年 3月 9日		～ R8年 3月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)
○従業者評価実施期間	R8年 3月 9日		～ R8年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	LINEツール等を活用した、圧倒的な「可視化」と「安心感」の提供	LINEを活用し、その日の活動の様子を写真付きで速やかに報告している。スタッフ一人一人が、保護者が本人の先生(学校等)に相談する際にも役立つような具体的な情報共有を意識している。	今後は単なる報告だけでなく、「放課後等デイサービス計画」の進捗状況とリンクさせた情報のデジタル共有を検討し、より専門性の高いフィードバック体制を構築していきたい。
2	本人の「楽しさ」と「自己肯定感」を大切にしたい支援	長期休暇中に「行く！」と本人が言うほど、心をもって楽しく活動できている。本人が自分らしく、明るい表情で過ごせるような雰囲気づくりと環境設定をスタッフ全員で行っています。	本人の「やりたい」という意欲をより引き出すため、活動プログラムの選択肢を広げ、本人の成功体験を積み重ねるためのスモールステップの設定をより細分化して行っていきたい。
3	社会交流と外部連携を重視した活動展開	施設内での活動に留まらず、地域の子どもたちとの交流や、外部の人との関わりを大切にしている。社会との接点を持つことが本人の成長に繋がるという信念のもと、積極的に外の世界と触れ合う機会を提供している。	今後はワークセンター等の他施設との連携をさらに深め、将来の就労や自立に向けた「移行支援」を意識した、より具体的な社会体験プログラムの拡充を目指すよう努力していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム(研修会・交流会)の実施頻度	ペアレント・トレーニングや保護者同士の交流会の機会提供が十分ではなかった。感染症の流行時期と重なったことが主な要因だと考えるが、ニーズがあるにもかかわらず計画倒れになった面がある。	来年度は感染状況を考慮しつつ、オンラインでの開催や、少人数制の座談会など、形式を工夫して定期的に開催できるよう年間計画に組み込んでいきたい。
2	きょうだいへの支援の認知度と実施内容	きょうだいへの支援が行われているかについて、保護者の理解や認知が十分に進んでいない。また、きょうだい向けのイベント実施も今後の課題。	きょうだいを抱える特有の悩みにも配慮し、イベント時のきょうだい参加枠の確保や、保護者面談時におけるきょうだいの状況確認を意識的に行い、支援の幅を広げていきたい。
3	活動プログラムのマンネリ化防止と構造化の更なる深化	活動プログラムが固定化されないような工夫はしているが、より本人の特性に合わせた環境の構造化(パーソナルスペースの確保等)については、まだ改善の余地があると考える。	職員研修を通じて、最新の療育技術や環境構成の知識を取り入れていきたい。本人がより迷いなく、集中して活動できるような視覚的な構造化やバリアフリーへの配慮を、施設全体で再点検し強化していきたい。